

『税は国民の貯金』

村上市立村上第一中学校 3年
富樫 和可奈 さん

小さい頃、初めて百円ショップで買い物をしたときのことだ。欲しいものを見つけた私は百円硬貨一枚を握り、レジに並んだ。お店の人に商品を渡し、支払う額を確認すると、百八円。百円では足りなかった。焦った私はすぐに母を呼び、不足分を支払ってもらい、無事に商品を手に入れた。

この体験が私が税金を知ったきっかけだ。今は百円ショップでは百十円で商品を購入する。「百円」で購入できるお店なのに百円では買うことができなかった。当時の私は疑問で仕方がなかった。

父・母に聞くと、百円より多く払ったお金は「税金」と呼ばれることが分かった。そのときは税金は国に納める大切なお金、と教わった。これで百円より多く払った分のお金の正体分かった。しかし、税金が何に使われるのか、なぜ買い物のときに国にお金を払うのかは分からないままだった。

税の使い道を知ったのは、小学生の租税教室のときだ。そのときに税金は私たちの生活を支えるサービスである社会保障に多く使われていることを知った。社会保障の



具体例を挙げると、年金・子育て支援・医療・介護などがある。私たちがこれらのサービスを必要とするとき、税金でその費用がまかなわれる。私が受けている恩恵は今学校に通えていることだ。これも税金のおかげだ。仮に税金が無かったら、私たちは今と同じように学習し、友達と出会い、楽しんで過ごす、ということとはできていなかっただろう。

なぜ買い物のときに国にお金を払うのかについても知ることができた。日本には約五十種類の税がある。そして、何に課税しているかという点で大きく三つに分かれ、その一つが消費税である。消費税は個人の消費に対して課税するものだ。つまり、私が百円ショップで百円で商品を買うことができなかったのは、消費税が掛けられていて、本来は百円の商品が少し高くなっていたからだと気付くことができた。

税金が大切なのは分かる。しかし、自分の買い物にまでお金が掛かることには少し疑問を抱いていた。小学生の頃から少しモヤモヤしていたことに中学生になった今、自分なりの解釈を見つけた。税はいつかの自分が楽をするための「貯金」だと思う。この解釈ができたのは家で貯金をしていたときのことだ。貯金をしておくことで、いつか欲しいものができたときに買いやすくなる。税も同じである。税金を払っておくことで、いつかの自分が社会保障を受けられる。税金はいつか必ず自分に返ってくるのである。

大きな買い物などをするときや大人になったとき税を嫌だと感じることもあるだろう。でも、いつか必ず返ってくる。「税金は自分が楽をするための貯金」この解釈は間違っているかもしれないが、私はそう思って税金をしっかりと払いたい。